

Let's try! パラスポ実施報告書

教育局名	空知教育局
------	-------

1 事業概要

- ・ 目的： 障害者の生涯学習推進に向け、障害の有無にかかわらず共にスポーツに取り組み楽しさを体験させることを通じて、障害の有無にかかわらない社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障害者の学びを支援する人材育成の基盤とする。
- ・ 連携団体： 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川、北海道教育大学岩見沢校アダプテッド・スポーツ研究室、社会福祉法人砂川市社会福祉協議会、岩見沢市健康福祉部福祉課、空知社会教育研究協議会
- ・ 日時： 令和5年9月23日（土）～9月24日（日） 1泊2日
- ・ 会場： 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川
- ・ 対象： 小学1年生～高校生（障害がある方もない方も）
- ・ 参加者： 20名（障害のある児童3名と付添の家族3名を含む）

2 内容や活動の様子

- ・ 最初に自己紹介や簡単なゲーム等のアイスブレイクを実施。
- ・ 1日目は、車椅子競技、アンプティサッカー、カーリング、フライングディスク、ブラインドサッカー、ゴールボール、シッティングバレーボール、計8種類のアダプテッド・スポーツを個人やグループで体験。
- ・ 1日目夜に、キャンプファイヤーや焼きマシュマロを体験。
- ・ 2日目は、ポッチャを6チームの総当たり戦で実施。



3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

- ・ 入浴時間や部屋割等、障害のある児童と家族に配慮。
- ・ 事前の学習会や、当日のミーティングの中で、特に障害のある参加者への配慮事項をスタッフで確認。
- ・ 参加者の意識の変容を見取るため、事業の前後にアンケートを実施。
- ・ 今後の各市町の取組の参考とするため、当日の見学者の受入。（町教委職員2名）



4 参加者からの感想

- ・ 障害がある人もない人も、楽しめるスポーツがあることがよくわかった。
親子ともども初めての参加だったが、とても楽しく充実した2日間を過ごすことができたので、今後、参加できる事業があれば、是非参加したい。(保護者)
- ・ 自分の障害を堂々と言いながら参加できる行事やスポーツは、実際にはあまりないので、今回のように参加対象が「障害のある子もない子も」と名を打っているだけで、参加しやすい。(保護者)
- ・ 学校等とは違う環境に入る事は、大事だと思う。(保護者)

5 成果と課題

■成果

- ・ 事業の実施にあたり、事前に学習会を行って、障害のある参加者の安全や支援のポイントについて、専門家から指導・助言を受けられたことで、どの参加者も安心して活動できるようにサポートすることができた。
- ・ このあと、改めて専門家を交えた事後の学習会を行い、本事業の成果や課題についての協議を経て、今後の市町の取組の参考とする予定である。
- ・ アダプテッド・スポーツについて、あまり知らない参加者が、実際に体験することにより、その楽しさに気づいていた。
- ・ 道具やルールを工夫することで、障害の有無に関わらず、スポーツを楽しめることに気づいていた。



■課題

- ・ 障害があつたり、学年が離れたりしていても、参加者の誰もが楽しく参加できるプログラムの準備と適切な運営方法について、ノウハウの蓄積や、スタッフのスキルをさらに高めていく必要がある。
- ・ 高校生の参加を促すため、管内の高等養護学校を訪問して広報を行ったが、申込が無かった。ニーズを捉えた事業を企画していきたい。



令和5年度文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」(道教委事業名「障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業」) 体験の風をおこそう推進事業

「Let's try! パラスポ」開催要項

- 趣旨 障がい者の生涯学習推進に向け、障がいの有無にかかわらず共にスポーツに取り組む楽しさを体験させるを通じて、障がいの有無にかかわらず社会参加や活躍の場づくりの機会とするとともに、障がい者の学びを支援する人材育成の基盤とする。
- 主催 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 北海道教育庁空知教育局
- 協力 北海道教育大学岩見沢校アダプテッド・スポーツ研究室
- 期日 令和5年9月23日(土)～24日(日)1泊2日 (日帰りの参加も可)
- 参加定員 30名程度(定員を超えた場合は、抽選となります)
- 参加対象 小学1年生～高校生(障がいがある方もない方も)
※ 障がいのある方には、保護者、介助者等の同伴も可能です。
- 参加経費 1泊2日日程参加の場合 小・中学生 2,110円(内訳:宿泊費670円、食費(夕食800円、朝食500円)、保険料140円)
高校生以上の学生 2,520円(内訳:宿泊費980円、食費(夕食800円、朝食600円)、保険料140円)
※ 日帰り参加(1日目のみ、2日目のみ、両日日帰り等)も可能ですので、その際の料金(日帰り利用料1日あたり200円、保険料、食費等)はお問い合わせください。
※ 障がいのある方及びその介助者等につきましては、宿泊費及び日帰り利用料が免除になります。



8 日程

1日目	13:30		14:00	14:30	17:30 18:30		21:30	22:00	
	受付開始時間 13:30	受付	出会いの つどい	活動1 パラリンピック競技 アダプテッド・スポーツ等の体験		夕食	自由参加活動 入浴	就寝 準備	就寝
2日目	6:30	7:30	8:30	9:00	11:00	12:00			
	起床	準備	朝食	部屋清掃 部屋点検	活動2 チームで対戦 (何になるかは楽しみ)	ふりかえり 別れのつどい	解散		

- 持ち物 上靴、着替え、洗面・入浴用具(石鹸、シャンプー、タオル、コップ等)、筆記用具、保険証(コピー可)、その他必要なもの

- 申込み 右の二次元コードまたはネイパル砂川 HP の申込フォームからお申し込みください。

期間:令和5年8月28日(月)9:00～9月8日(金)17:00

- ・申し込み送信後、申込確認メールが届かない場合は連絡願います。
- ・申込み多数の場合は抽選とし、抽選結果は9月12日(火)迄にメール連絡いたします。



申込フォーム

- その他 次の事項をご了承の上、お申し込みください。

- ・申込情報はネイパル砂川事業の運営にのみ使用します。事業開催中に撮影した写真等は、新聞等の報道機関や当施設のホームページ等で掲載することがあります。
- ・事業開催中の補償については、参加費に含まれている国内旅行傷害保険の範囲内となります。



北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川

(指定管理者 一般財団法人北海道子どもの国協会)
〒073-0108 砂川市北光496番地の25
電話 0125-53-2246
Eメール sunagawa@cocoa.ocn.ne.jp

体験の風を
おこそう



いっしょに遊ぼう！ 実施報告書

教育局名	石狩教育局
------	-------

1 事業概要

- ・ 目的： 障害者本人や家族、福祉、医療、教育等の関係者が参画し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議し、障害者の多様な学習活動の総合的な支援を推進するための体制の構築や人材育成、実践研究や調査研究を行い、共生社会の実現に向けた取組を推進することを目的とする。
- ・ 連携団体： 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会、NPO 法人 E-LINK、リーさんのあったかい手、北海道大学
- ・ 日時： 令和6年1月21日（日）13：30～15：30
- ・ 会場： 札幌市生涯学習センター「ちえりあ」（札幌市西区宮の沢1条1丁目）
- ・ 対象： どなたでも（障害の有無に関わらず）
- ・ 参加者： 20名（うち、障害のある方4名）

2 内容や活動の様子

(1) オリエンテーション

様々な参加者がいることから、会場内ルールの確認とアイスブレイクを行うことで、参加者同士がどんなことに気をつけて活動するべきかを学ぶことができた。

(2) アダプトッドスポーツに挑戦しよう

会場内にボッチャ・フライングディスク・モルック・カローリング・ゴールボールができるブースを設置し、参加者各々で選択して各種目に挑戦した。

3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

- ・ 北海道大学の学生にボランティアスタッフとして参画いただき、各ブースの担当や参加者の支援等を行っていただいた。
- ・ 障害の有無で活動を分けずに一緒に活動するようにすることで、参加者同士の交流を図った。
- ・ 特に障害を持つ参加者への支援は最低限とし、挑戦することを見守る方針を運営者全員で共有した。

4 参加者からの感想

- ・ 障害がある人もない人も一緒に楽しめるスポーツがたくさんあることを初めて知った。
- ・ これまであまり関わったことがなかった人と話すことができ、すごく楽しかった。
- ・ やればできることが、自分が思っていたよりも多くあることに気づいた。
- ・ 同じような機会があればぜひ参加したい。

5 成果と課題

■成果

- ・「障害者のための事業」よりも、「障害の有無に関わらず」という事業の方が、共生社会を目指す上では有効であることが再確認できた。そうした時に障害を持つ方が参加しづらいのではないかと考えていたが、「むしろ参加しやすい」という声を聞くことができ、運営者としても学びが多くあった。
- ・過剰な支援を行わないことを運営者で共有していたため、「参加者の挑戦を見守る」というスタンスを崩すことなく支援することができた。
- ・市内の団体を運営者とすることで、今後の自主的な事業展開につなげることができた。

■課題

- ・対象を広げすぎたため、参加者同士の交流が偏ってしまう場面があった。事業の趣旨を考えると、対象となる年齢層を絞った小規模のものを数多く行った方がよかった。
- ・周知が不十分だった。どの層（障害の軽重、年齢層）が参加できるのか、関係各所に丁寧な説明とともに周知する必要があった。
- ・今回は「スポーツ」を手段にしたが、文化的な活動（創作活動等）にも取り組んでいく必要がある。
- ・今回は保護者も多く来ていたこともあり、大きなトラブルは無かったが、今後は何かトラブルがあった時のために、有資格者を運営者に加えていくことを検討する必要がある。



■今後の方向性

- ・「障害者の生涯学習」の意義や取組を広めるため、他市町村で同様の事業を行っていく。
- ・成果と課題を蓄積し、NPO等の団体が主催者となって実施できるよう働きかけていく。

令和5年度 障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業
「多様な主体による学習プログラム構築事業」

いっしょに遊ぼう！

実施要項

1 目的

障害者本人や家族、福祉、医療、教育等の関係者が参画し、学校卒業後における障害者の学びの場の整備・拡充や情報共有の仕組み等について協議し、障害者の多様な学習活動の総合的な支援を推進するための体制の構築や人材育成、実践研究や調査研究を行い、共生社会の実現に向けた取組を推進することを目的とする。

2 主催

北海道教育委員会

3 期日

令和6年(2024年)1月21日(日) 13:30~15:30

4 会場

札幌市生涯学習センター「ちえりあ」(札幌市西区宮の沢1条1丁目)

5 参加対象

どなたでも(障がいがある方もない方も)

6 日程

13:15	13:30	13:40	14:10	15:20	15:30
	受付	開会	(1) オリエンテーション・ アイスブレイク	(2) アダプテッドスポーツに挑戦しよう！	閉会

※挑戦できる種目(予定)

ボッチャ・フライングディスク・モルック・カローリング・ゴールボール 他

7 申込

メールまたはお電話でお申込みください。

8 その他

- ・当日は軽装でお越しください。
- ・活動するに当たり、支援が必要な方はお気軽にお申し付けください(本格的な競技ではなく、体験です)。

申込・お問合せ先

石狩教育局教育支援課社会教育指導班(佐々木)

電話 011-204-5879(直通)

メール sasaki.naoto@pref.hokkaido.lg.jp

わがまち食材をGet & Eat 実施報告書

教育局名

後志教育局

1 事業概要

- ・ 目的： 学校卒業後における障害者の学習機会拡充のため、教育や医療、福祉の必要な支援のもと、地域における多様な主体の連携・協働による生涯学習プログラムの実施を通して、地域や関係機関のネットワーク構築や合理的配慮の体制整備等を推進する。
- ・ 連携団体： 真狩村教育委員会、真狩村商工会、JAようてい真狩支所、北海道真狩高等学校、社会福祉法人真狩村社会福祉協議会、社会福祉法人北海道福心会
- ・ 日時： 令和5年8月29日（火）13:30～17:30
- ・ 会場： 真狩村公民館（真狩村字光4）及び公民館に隣接する農耕地
- ・ 対象： 真狩村在住の方
- ・ 参加者： 8名（うち、障害者手帳所有者1名、療育手帳所有者1名）

2 内容や活動の様子

開会・ミニ研修会

公民館調理室で事業をスタートした。冒頭、後志教育局社会教育指導班より挨拶があり、その後のミニ研修会では事業概要や真狩村で本事業を実施する目的などについて参加者・運営者で共通理解を図った。

収穫体験

【講師】 JAようてい真狩支所青年部副部長 藤川 淳 氏
真狩村商工会青年部部长 岡崎 将人 氏

JAようてい真狩支所青年部が管理する農耕地を借り、じゃがいも、スイートコーン、にんじん、大根の収穫体験を実施した。藤川氏より野菜の収穫に適した時期やおいしい野菜の見極め方が説明された。勝手に収穫を始めてしまう方やどのように収穫してよいかわからない参加者に対しては、JAや商工会の青年部員が近くに寄り添い一緒に野菜の収穫を行っていた。



調理活動

【講師】 真狩村商工会青年部部长 岡崎 将人 氏
JAようてい真狩支所青年部副部長 藤川 淳 氏

収穫したじゃがいもとJAの青年部員から提供いただいたトマトとピーマンを使ってじゃがいもピザづくりに挑戦した。その他の食材は商工会より提供された。講師の岡崎氏より、野菜の切り方や火の通し方のポイントなどの説明があり、実演を交え作り方を説明。参加者は2人一組になって調理活動に取り組んだ。身体障害のある方に対しては、運営者で作業の補助をしながら参加者自身でできるだけ調理活動に取り組めるように配慮した。その方のアンケートには「自分で作ってピザを食べられたのがうれしかった」と書かれていた。



スイーツ試食会

【提供】 北海道真狩高等学校製菓コースの生徒のみなさん

真狩村特産の雪下にんじんを使用したケーキの提供があり、参加者から「にんじんの甘さがちょうどよい」「真狩の野菜がこんなにおいしいスイーツになるなんて驚いた」などの感想が聞かれた。



実食（座談会）

参加者は今日の活動について感想を発表し合いながら自分たちが作ったピザを食べた。

振り返り

調理室の片づけを全員で行い、最後にアンケートを記入した。

3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

・ スタートアップ支援学習会で参加者全員の特性や性格を運営者全員で情報共有

そうすることで作業が止まったり、困ったりした様子が見られたときに運営者の誰かが声をかけられる支援体制を整えた。

・ 作業時や移動時の指示の明確化

障害者、高齢者など参加者が多様であるため、講師の方々には「いつまでに、何をするのか」がわかるように指示を出してもらうようお願いした。作業スピードにも個人差があることが考えられたので、先に進まず様子を見て次の指示を出すようにしてもらった。

・ 参加者の学びや活動できる喜びを大切にする

参加者は活動や学習に取り組みたくて参加しているので、「手伝う」「やってあげる」のではなくまずは自分で挑戦してもらい、手伝いや補助が必要な場合は運営者が支援するようにスタートアップ支援学習会で確認した。

4 参加者からの感想

参考 1：「この事業はわたしにとって学びがあり、総合的にみてとてもよい事業であった」

「とてもそう思う」と回答した人が 88%

参考 2：「次もこのような事業があったら参加したい」

「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人が 100%

参考 3：「講師や運営協力者はとても接しやすく丁寧であった」

「とてもそう思う」と回答した人が 100%

【アンケートの自由記述】

- ・ 収穫体験した野菜をたくさんいただきありがとうございました。簡単でおいしいピザづくりもおいしく出来ました。村の特産で出来るのがいいですね。
- ・ 久しぶりに土と野菜に出会った楽しい時間でした。ピザもやさしい作り方でよかったです。
- ・ 青年の方々がとてもやさしく教えてくれてよかったです。

5 成果と課題

- 成果
 - ・ 関係機関との事前協議やスタートアップ支援学習会を通して「地域における多様な主体の連携・協働による生涯学習プログラムを実施する」という目標は達成できた。
 - ・ 今回「教育委員会」「商工会」「JA」「社会福祉協議会」と連携したモデル事業のため、どの地域、どのまちでも実施しやすい内容で行うことができた。



- 課題
 - ・ 参加者の募集時に「障害者の生涯学習」という文言を入れることで「自分は参加対象ではない」と思う方がいるなど事業の特徴や目的などをどのくらい打ち出して参加者募集を行うのか判断が難しい事業であった。
 - ・ (今回の事業は社会福祉士、介護福祉士の有資格者が運営者にいたが) このような事業を実施するにあたり、有資格者に毎回事業に参加してもらう体制を継続していくことには課題があり、関係機関のより密な連携が求められる。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
 (道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業)

多様な主体の連携による学習プログラム構築事業
 「わがまち食材をGet & Eat」実施要項

- 1 目的 学校卒業後における障害者の学習機会拡充のため、教育や医療、福祉の必要な支援のもと、地域における多様な主体の連携・協働による生涯学習プログラムの実施を通して、地域や関係機関のネットワーク構築や合理的配慮の体制整備等を推進する。
- 2 主催 北海道教育委員会（主管 後志教育局）
- 3 協力 真狩村教育委員会、真狩村商工会、JA ようてい真狩支所、北海道真狩高等学校、社会福祉法人真狩村社会福祉協議会、社会福祉法人北海道福心会
- 4 期 日 令和5年8月29日（火）13:30～17:30
- 5 会 場 真狩村公民館（真狩村字光4）及び公民館に隣接する農耕地
- 6 対象・定員 真狩村在住の方、10組程度（障害者と支援者で1組とする）
- 7 内 容

13:30	14:00	14:30	15:00	15:15	15:45	16:00	16:30	17:00	17:30	
受付	ミニ研究会	移動	収穫体験 じゃがいも スイートコーン にんじん 大根	移動・休憩	調理活動	試食会	調理活動 真狩村の野菜を使って じゃがいもピザづくり	実食 (座談会)	振り返り	閉会

終了

【各自で用意いただくもの】

- 動きやすい服装 ○帽子 ○長靴 ○軍手 ○水分補給できるもの
- 汗拭き用タオル ○上靴・スリッパ（公民館用）

- 8 参加申込
 参加申込書に必要事項を記入の上、**8月14日（月）16:00まで**に下記に示した機関へ申込書を持参ください。なお、障害者を支援する方で参加を希望される場合も申し込みをお願いします。8月18日中に参加決定の連絡をいたします。
【申込書受取機関】①後志教育局 ②真狩村教育委員会 ③真狩村社会福祉協議会

- 8 留意事項
 - (1) 本事業は、「障害者の学習機会拡充」を目的とした事業です。参加者の障害種等によっては事業内容や予定時間を変更する場合がありますので御了承おきください。事業を行うにあたり、運営者ができる支援や配慮がありましたら参加申込書にご記入ください。
 - (2) 本事業で記録した画像等については、北海道教育委員会ホームページや広報等で使用させていただくことがありますので、あらかじめ御了承ください。
 - (3) 事業の安全性の確保と参加者に対して配慮に努めながら運営するために教育委員会・関係団体で「スタートアップ支援学習会」を実施します。学習会の日程は別紙「スタートアップ支援学習会」実施要項でご確認ください。
 - (4) 教育委員会・関係団体への事業成果の普及を図るため事業実施後に事業検討会をオンラインで実施します。日程については改めてご連絡します。

問い合わせ 北海道教育庁後志教育局社会教育指導班（担当：秋口）
 電話 0136-23-1985 メール akiguchi.yuuta@pref.hokkaido.lg.jp

「多様な主体による学習プログラム構築事業」

お手軽なアート作品に挑戦しよう！実施報告書

教育局名

オホーツク教育局

1 事業概要

- ・ 目的： 福祉事業所利用者及び地域住民が、創作活動を楽しみながら余暇活動の幅を広げるとともに、本事業における教育委員会と社会福祉協議会の連携・協働による生涯学習プログラムの実施を、今後の小清水町における障害者を取りまくネットワーク構築や合理的配慮の体制構築につなげる。また、町民文化祭を活用して障害者の芸術活動を知ってもらい交流を深める。
- ・ 連携団体：小清水町社会福祉協議会（就労支援事業所「エゾモモンガ」）、小清水町保健福祉課
- ・ 日時：令和5年11月17日（金） 13:00～16:00
- ・ 会場：小清水コミュニティプラザ（町立小清水町図書館）視聴覚室 [小清水町南町2丁目27番7号]
- ・ 対象：就労支援事業所「エゾモモンガ」利用者及び関係者、町内在住の方（障害の有無によらない）
- ・ 参加者：17名（うち、障害のある方 11名）

2 内容や活動の様子

（1）「お手軽なアート作品づくり」

ホワイトボードに作業の手順や準備物を示したり、講師による手順の説明とデモンストレーションの後に制作を始めるようにしたりすることで、参加者は見通しを持って活動に取り組むことができていた。

① 「カラフルボトル」づくり

パステルを使って着色した食塩を、透明なガラス瓶の中に積み重ねて制作した。作業の難易度は低いが、時間をかけてじっくり楽しみながら取り組んだ。それぞれの表現の違いを感じ、参加者同士の会話もはずんだ。

② 「インク染め（ハンカチ）」

油性ペンをエタノールでにじませ、白いハンカチに模様を描く活動に取り組んだ。エタノールをスポイトで1滴ずつゆっくり垂らす練習の後に、一人ずつスポイト操作を確認してから制作に取り組むことで失敗を防ぎ、個性豊かな作品ができた。

（2）「作品の交流、ミニ展覧会」

全員の作品を窓際の展示スペースに並べて自由に鑑賞した。参加者同士で感想を話したり、褒めあったりしてなごやかに交流していた。



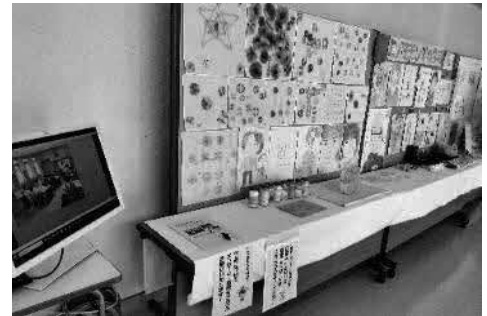
別紙様式 5

3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

- ・就労支援事業所職員と打合せを行い、講師に提示された複数の制作活動から参加者の実態に合わせて活動を選択した。
- ・障害のある方の取組や作品を地域住民に広く周知するため、本事業で制作した作品と制作者が語る作品紹介動画を「町民文化祭（道民芸術祭）」で展示した。

4 参加者からの感想

- ・とても楽しい時間でした。楽しかったです。
- ・このような機会があれば、また参加したいです。
- ・作る前に予想していたものと違う作品ができました。



町民文化祭（道民芸術祭）での展示

※参加者アンケートより（5段階評価 5 良い⇔1 悪い）

- ①参加して良かったですか（4.86）
- ②楽しめましたか（4.86）
- ③作品の満足度（4.57）
- ④また、参加したいですか（4.86）

5 成果と課題

- 成果
 - ・施設利用者は、障害者対象と言われることに抵抗がある方が多く、一般事業に障害の有無によらず参加できるという体裁の方が受け入れられやすいことがわかった。
 - ・地域住民に、就労支援事業所や施設利用者について知ってもらうことができた。
 - ・町民文化祭に来場した地域の方から感想やメッセージをもらい、交流することで、今後の活動へのモチベーションにつながった。
 - ・活動内容を工夫することで、障害の有無にかかわらず参加者が一緒に楽しむ機会を提供できた。
- 課題
 - ・一般の参加者が多くなった際にも、障害のある方へ十分な配慮ができるよう工夫する必要がある。
 - ・町民文化祭の来場者以外にも、障害の有無にかかわらず取り組める活動について周知していく。
 - ・多様な学習機会の提供のため、スポーツなど創作活動以外の内容でも、障害の有無にかかわらず参加・交流できる取組を展開していく必要がある。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
(道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業)
「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業」

「お手軽なアート作品に挑戦しよう♪」実施要項

1 目 的

学校卒業後における障害者の学習機会拡充のため、教育や医療、福祉の必要な支援のもと、地域における多様な主体の連携・協働による生涯学習プログラムの実施を通して、地域や関係機関のネットワーク構築や合理的配慮の体制整備等を推進する。

2 主 催 北海道教育委員会

3 主 管 小清水町教育委員会、北海道教育庁オホーツク教育局

4 協 力 小清水町社会福祉協議会、小清水町保健福祉課

5 期 日 令和5年(2023年)11月17日(金)13:00~16:00

6 会 場 小清水コミュニティプラザ(町立小清水町図書館)視聴覚室
[小清水町南町2丁目27番7号]

7 対 象 障害の有無に関わらず、どなたでもご参加いただけます。
小さなお子様お連れのご家族での参加大歓迎です。(定員30名)

8 参 加 費 無 料

9 内 容

13:00 13:10 14:10 14:20 15:20 15:30 15:45 15:55 16:00

開 会	体験活動① 「お手軽なアート 作品づくり」	休 憩	体験活動② 「お手軽なアート 作品づくり」	休 憩	交流活動③「作品 の仕上げをみんな で協力しよう」	ま と め	閉 会
--------	-----------------------------	--------	-----------------------------	--------	---------------------------------	-------------	--------

○体験活動講師 アトリエたねまき代表 植野 倫加 氏

・体験活動①②「お手軽なアート作品づくり」

講師の植野氏から、数種類のアート作品(ステンドグラス、インク染めハンカチ、カラフルボトル、光のこぶつ等)づくりについて説明をいただきます。その後、参加者のレベルに合わせて作品づくりに挑戦していただきます。

・交流活動③

参加者同士で、作品づくりの感想や作品についての意見交流をはかります。講師の植野氏のアドバイスをもとに作品の仕上げを行い、レベルアップを図ります。

10 申込方法

右の二次元コードから、必要事項を入力してください。

受付完了の返信メールでご確認ください。(先着30名)

※二次元コードが読み込めない場合は、お手数ですが下記の連絡先までお電話でご連絡ください。

11 申込締切 令和5年(2023年)11月2日(木)

12 準備物 エプロン 手ぬぐい 筆記用具

13 留意事項

(1) 本事業は、就労支援事業所「エゾモモンガ」と連携して実施し、利用者の方に参加いただきます。

(2) 参加にあたり、必要な配慮がある場合は事前に下記担当あてにご相談ください。

(3) 本事業で撮影した写真や映像は、記録や報道に利用することがありますので、予めご了承ください。

小清水町教育委員会生涯学習課社会教育係 黒田
T E L 0152-62-2310
F A X 0152-62-4198
e-mail:k-shakyomgr@town.koshimizu.hokkaido.jp



エンジョイ！パラスポ実施報告書

教育局名

釧路教育局

1 事業概要

- ・ 目的： パラスポーツを体験し、障害に対する理解を深めるとともに、多様性を認め合う社会づくりの醸成を図る。
- ・ 連携団体： 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸
社会福祉法人釧路市社会福祉協議会
車いすバスケットボールチーム「釧路FREEZZ」
- ・ 日時： 令和5年（2023年）12月2日（土）10：00～16：30
- ・ 会場： サン・アビリティーズくしろ（釧路市鳥取南7丁目2-20）
- ・ 対象： パラスポーツに興味のある方
- ・ 参加者： 24名

2 内容や活動の様子

- ・ 講演 「パラスポーツってなあに？」
講師 高瀬 勝洋氏（社会福祉法人釧路市社会福祉協議会）
- ・ パラスポーツ体験「車いすバスケットボール／ボッチャ」



3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

- ・ 様々な参加者が障害等に関係なく、パラスポーツを一緒に行い楽しさを共有することでパラスポーツのよさや多様性・障害について考えられるようにした。
- ・ 競技者の増加や地域スポーツへ発展することを期待し、道東地域に住むパラリンピック経験のある講師に依頼し、車いすバスケットボールクラブの活動拠点でパラスポーツの指導や相談を行っている会場で行うなど、地域資源と連携・協力して事業を実施した。

4 参加者からの感想

- ・ 障害と一括りにするのではなく、個々の特性と捉えることが大切だと感じた。
- ・ 体験を通して難しさや楽しさを知ることができ、他のパラスポーツにも興味が湧いた。
- ・ 何が不自由で、どのようなことで困っているのかを知らないから、生活の基準が健常者になってしまうと思った。障害について知ることが大切だと思った。

5 成果と課題

- 成果 ・ 「障害とは何か」「共生社会の実現に向けて何ができるか」等を考えることで、多様性を認め合う社会づくりへの足がかりとなった。
- 課題 ・ 道東においてはパラスポーツを体験できる場所や機会が少ない。今後も関係機関や団体等と連携し、継続して事業実施するとともに、事業開催や趣旨を広く情報発信していくことが重要である。

令和5年度『エンジョイ！ パラスポ』 開催要項

- 1 趣 旨 パラスポーツを体験し、障がいに対する理解を深めるとともに、多様性を認め合う社会づくりの醸成を図る
- 2 主 催 北海道教育委員会
- 3 主 管 北海道教育庁釧路教育局・北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸
- 4 期 日 令和5年（2023年）12月2日（土） 日帰り
- 5 会 場 **サン・アビリティーズくしろ（〒084-0905 釧路市鳥取南7丁目2-20）**
※ 現地集合、現地解散となります
- 6 対 象 **小学3年生～大人の方、パラスポーツに興味のある方 参加定員：20名**
※ 見学のみの参加も可能です。（見学の方も申込フォームからお申し込みください）
- 7 申し込み 申込方法：右記のQRコード、又はホームページからお申し込みください
※ インターネット環境のない方は、お電話でお申し込みください（受付9：00～17：00）
申込〆切：令和5年（2023年）11月20日（月）17：00まで
※ 申し込み多数の場合、抽選となります
※ 抽選結果は、申込期間後にメールでご連絡します
※ 見学のみの希望される方も、申込フォームよりお申し込みください



8 参加費 210円（保険料）

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
12月2日（土）	9:30～受付	開会式	【講演】 パラスポーツってなに？ 障がい者・パラアスリートとして	昼食	パラスポーツを体験しよう！ ◎車いすバスケットとポッチャにチャレンジ！	ふりかえり 交流	閉会式	16:30～解散	

10 講 師 **高瀬 勝洋氏（社会福祉法人釧路市社会福祉協議会 事務局長）**
道東地区パラスポーツ指導者協議会会長
'98長野冬季パラリンピック パラアイスホッケー 日本代表コーチ
'02ソルトレイクシティ冬季パラリンピック パラアイスホッケー日本代表ヘッドコーチ

武田 豊氏（車いすバスケットチーム「FREEZZ」キャプテン）
'98長野冬季パラリンピック アイススレッジスピードレース日本代表
◀ 100m 金メダル 500m 金メダル 1000m 金メダル 1500m 銀メダル ▶

- 11 持ち物
 - ・参加費 ・上靴 ・お弁当（談話室等で昼食 ※ 近隣の飲食店等で外食されてもOKです）
 - ・飲み物（施設内で購入もできます） ・運動しやすい服装 ・汗ふきタオル
 - ・筆記用具 ・ハンカチ ・防寒着（気温に応じて）
 - ・参加同意書（後日、事前案内でお知らせします）

- 12 備 考
 - 個人情報事業運営にのみ使用します
 - 事業開催中に撮影した写真や動画は、当施設のSNS等に掲載させていただきますので、ご了承ください
 - 当施設で行う新型コロナウイルス感染症等の対策にご協力いただきます

＜お申し込み・お問い合わせ＞



北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸
（指定管理者：株式会社オカモト）

〒088-1113 厚岸郡厚岸町愛冠6番地
電話 0153-52-1151 FAX 0153-52-1152
ホームページアドレス <https://okamotopbc.jp/napal-akkeshi/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



食の宝箱～十勝のフードペアリング講座実施報告書

施設名	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
-----	-----------------------

1 事業概要

- ・ 目的： 学校卒業後における障害者の学習機会拡充のため、教育や医療、福祉の必要な支援のもと、地域における多様な主体の連携・協働による生涯学習プログラムの実施を通して、地域や関係機関のネットワーク構築や合理的配慮の体制整備等を推進する。
- ・ 連携団体： まち・らぼ暮らしの保健室、合同会社ミライリス、NPO 法人みんなのポラリス 一般社団法人とかち子育て支援センター、池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 足寄ひだまりファーム、満寿屋商店、共働学舎新得農場
- ・ 日時： 令和 5 年 10 月 8 日（日）～10 月 9 日（月・祝）
- ・ 会場： 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
- ・ 対象： 20 歳以上の方
- ・ 参加者： 33 名（うち、障害者手帳所有者 2 名）

2 内容や活動の様子

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
1 日目							12:30-13:00受付	開 会 式	十勝産食材 講座① (小麦粉)	十勝産食材 講座② (チーズ・野菜 編)	フード ペアリン 講座① (夕食編)	ピザ窯で ピザ作り	交流会・試食 (食と音楽) ※随時解散 ※宿泊者入浴可				就 寝 準 備	就 寝	
2 日目	起 床	洗 面 等	部 屋 清 掃	フ ード ペ ア リ ン 講 座 ② (朝食編)	片 付 け	閉 会 式	10:00解散												

○十勝産食材講座①小麦編

【講師】(株)満寿屋商店 代表取締役社長 杉山 雅則 氏

十勝の食材の豊かさ、十勝の小麦の特徴やそれらの扱い方についての講義とピザ生地作りを実施。参加者は扱う小麦の育てられた背景や生産者の想いを知った上で、ピザ生地作りを体験した。

○十勝産食材講座②チーズ・野菜編

【提供】共働学舎 新得農場

ピザのトッピング具材について、ネイパル足寄の職員が事前に生産者を訪ねインタビューしたものをスライドにまとめ、参加者に紹介。参加者は協力して作業を進めた。



立場の違う参加者が協力して作業を進める

○フードペアリング講座①ピザに合う飲み物編

【講師】足寄ひだまりファーム 代表取締役社長 沼田 正俊 氏

【講師】池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 営業課 総務係 係長 大淵 秀樹 氏

十勝産の食材を活用したピザに合う飲み物についての講義。沼田氏は、原材料の足寄産リンゴの特性や地元産の食材と合わせた時の効果や感じ方について説明。大淵氏は十勝におけるブドウ栽培の歴史と飲み物の製造方法を説明。参加者は講義を聞きながらペアリングについて体験的に学習した。

○ピザ窯でピザ作り

【講師】(株)満寿屋商店 代表取締役社長 杉山 雅則 氏

杉山氏の講義のもとピザを調理。参加者は、前段の講座の内容を活かしてピザのトッピングやピザと合わせる飲み物をペアリング。自分の選んだペアリングを評価し、他の参加者と交流しながら学びを深めた。

○フードペアリング講座②コーヒー編

【講師】元ドトールコーヒーショップ イーストモール店 副店長 満保 惇 氏

コーヒーの歴史、日本での変遷等を講師から説明後、用意された2種類のコーヒーと食べ物でペアリング体験。参加者は風味や味が変化することに驚くと同時に「日常の中で実践したい」など、生活と結び付けて学ぶ様子が見られた。

別紙様式 5

3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

・ スタートアップ支援学習会で参加者の特性を運営者全員で情報共有

事前に障害を持った参加者の情報を共有し、想定されるフォローが必要な場面等に関して意見を出し合った。

・ 状況を見ながらの事業実施を行える運営体制の構築

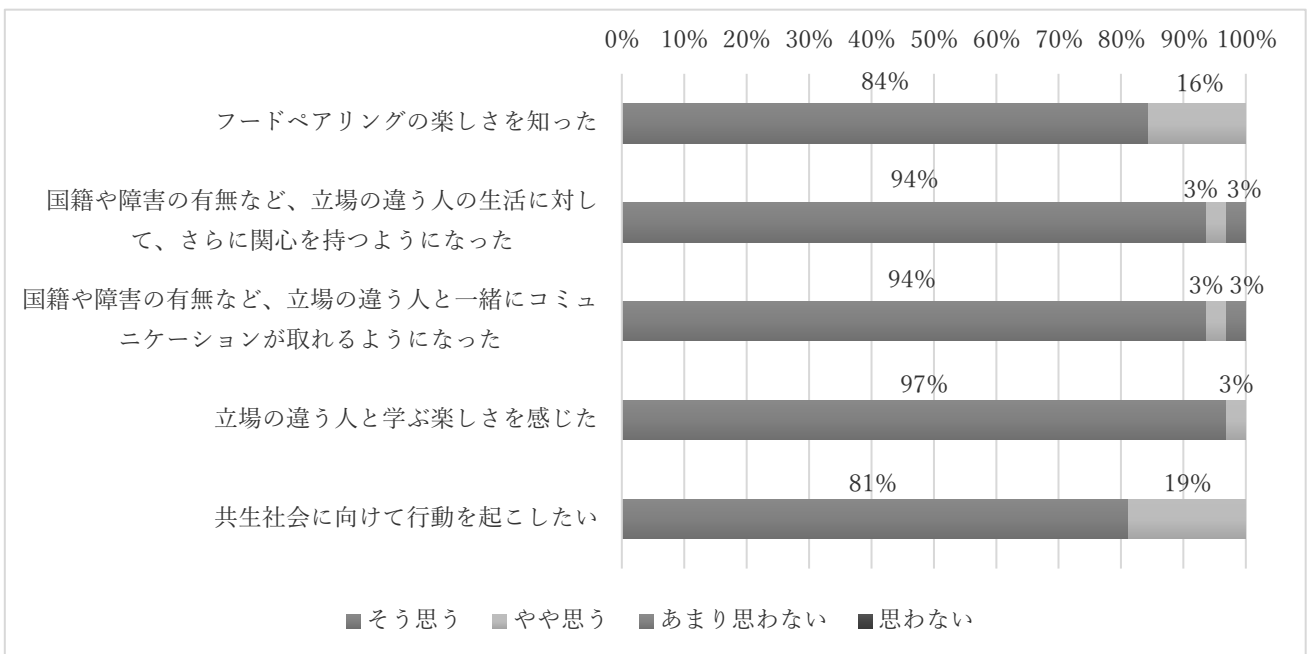
多様な参加者がいたため、実施中に予期せぬことが起きることが想定された。講師との調整を密にすることはもちろん、講師と運営の当日の連絡・調整をスムーズにするため、連絡体制を一本化し、全体で共有しながら運営を行った。

・ 共生社会の実現に向けた事業運営

参加者たちは障害の有無だけでなく、国籍の違い（中国人参加者複数名）による生活様式の違いもあり、普段感じない文化の違いも多く感じる場面があった。日本の手遊びや、お互いのパーソナルな情報交換等交流する場面を意図的に作ることによって、参加者同士のコミュニケーションが促進されるとともに、自分の生活を多面的に見直すことによって共生社会実現に向けて具体的な課題等を考えていた。

4 参加者からの感想 回答 32 名

【アンケートは、いずれも参加者が事業に参加する前と比べての回答】



【アンケートの自由記述】

- ・日頃から障害の有無に関わらず誰もが暮らしやすい地球にしたいと思っているので、事業に共感するところが多く、勉強になった。
- ・今後もこのような機会があれば参加してみたいと思いました。
- ・知らないことが多く勉強になりました。楽しくいろいろな体験ができました。

5 成果と課題

- **成果**
 - ・アンケートの結果から、地域の食材を活用した体験活動を通して、参加者が障害の有無に関係なく楽しみながら学びを深められたと考える。
 - ・福祉の専門的な支援のもと地域の有名な企業と連携し事業を推進することができたため、障害者の生涯学習に対しての地域ネットワーク構築や合理的配慮の体制整備等を推進することができたと考える。
- **課題**
 - ・参加した障害者が少なかったため、多様な参加者に参加してもらえるよう、周知の方法日頃からの関係作りが今後の課題といえる。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

(道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業)

令和5年度ネイパル足寄主催事業

食の宝箱～十勝のフードペアリング講座

- 1 趣 旨
- ・「食」をテーマとした講座や体験活動を通して、食や地域の産業への関心を高めるとともに、食同士の組み合わせを考え、より豊かな生活を送ろうとする意識の醸成を図る。
 - ・障害の有無にかかわらず共に活動することで、障害に関する理解の促進を図るとともに、共に学ぶ場づくりのノウハウや知見を得る。
 - ・学校卒業後における障害者の学習機会拡充のための地域や関係機関のネットワーク構築や、合理的配慮の体制整備等を推進する。
- 2 主 催 北海道教育委員会、北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
- 3 協 力 まち・らぼ「暮らしの保健室」
池田町ブドウ・ブドウ酒研究所、足寄ひだまりファーム、満寿屋商店
- 4 期 日 令和5年10月8日(日)～9日(月・祝) 1泊2日
- 5 会 場 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄
- 6 対象・定員 20歳以上の方 30名程度
- 7 講 師 大淵 秀樹 氏(池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 営業課総務係長)
沼田 正俊 氏(有限会社足寄ひだまりファーム 代表取締役)
杉山 雅則 氏(満寿屋商店 代表取締役)
大川原典宏 氏(満寿屋商店(麦音) 室長兼広報担当課長)
満保 惇 氏(北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄所長 元ドトールコーヒーショップ帯広イーストモール店 副店長)

8 参加経費 お一人 4,000円

※参加経費は、当日受付時にお支払いください。

※障害者手帳をお持ちの方で宿泊をされる方は、1,800円参加経費から減額されます。

9 日程・プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目							12:30-13:00受付	開 会 式	十勝産食材 講座① (小麦粉)	十勝産食材 講座② (チーズ・野菜編)	ピザ窯でピ ザ作り	フー ド ペ ア リ ン 講 座 ① (夕食編)	入浴	交流会 (食と音楽)		就 寝 準 備	就 寝
2日目		起 床	洗 面 等	部 屋 清 掃	フー ド ペ ア リ ン 講 座 ② (朝食編)	片 付 け	閉 会 式	10:00解散									

10 持ち物 健康保険証 上靴 着替え ドライヤー 洗面・入浴道具・タオル
ハンカチ・ティッシュ 個人の常用薬 エプロン 三角巾 その他各自必要な物

11 申込方法 以下のいずれかの方法でお申し込みください。

・右の二次元コード(Google フォーム)からのお申込

・ネイパル足寄へ電話をかけ、参加希望の意思を伝える

【申込時の記載内容】 ※電話での応募の場合は口頭でお伝えください

①氏名 ②生年月日(西暦) ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号(つながりやすいもの)

⑥事業当日にアルコールを飲まれるか ⑦障害者手帳所持の有無(障害種)

⑧食物アレルギーの有無(ある場合はすべての品目を記入してください)

⑨その他(必要な支援や配慮の内容)



12 申込期限 令和5年9月30日(土)17:30必着 ※申込多数の場合は抽選を行います。

13 その他

・期間中に撮影した写真は、HPや報道記事の資料として活用させていただきますので予めご了承ください。



地域 ESD 施設活動推進拠点 登録施設

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄

(指定管理者 株式会社オカモト)

〒089-3734 北海道足寄郡足寄町常盤3番地

TEL 0156-25-6111 / FAX 0156-25-6112

URL <https://okamotopbc.jp/napaal-asyoro/> E-mail napaal-ashoro@okamoto-group.co.jp

